

あわら温泉バスツアー



観月の夕べ 香美市物産展

8月28日、姉妹都市福井県あわら市で開催されたあわら北潟湖畔観月の夕べに、香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会が主体となって、24人※の訪問団が参加しました。

今回は、同イベントへの香美市物産店の出店と、あわら温泉バスツアーが行われ、会場で香美市の地場産品であるしょうがやユズの関連商品を販売しました。一行は、東尋坊や永平寺を訪れ、あわら温泉で旅の疲れをとりました。

※香美市物産店の出店に3人が参加。あわら温泉バスツアーに21人が参加。



宿泊先男湯



観月の夕べ

5千個のあかりばやし彩る

香美市文芸

風の流氷

◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

高原のりんごの花もわじの実り 小野寺朱実
 紫蘇揉んで夏季の行事の一区切り 岡田美代子
 農夫の燃焼に似たり曼珠沙華 森本 幸美
 つぎはぎの身の綻びや秋の風 森本 純喜
 沢の音聞こえ涼しき窓辺かな 北村千鶴子
 長梅雨に老の飲食儘ならぬ 高野 和一
 池を突くやんま頭に眼玉載せ 福留とものり
 猛暑日は国境ごえを想いだす 山本 太幸
 猫ジャラシ盛んに伸びて梅雨最中 小原 子川
 水打つて昭和の家並守り継ぎぬ 千頭 野草
 峡の田のほたるのあかり数えおり 楮佐古きよ
 新涼の赤子の声の響きけり 山崎 貴子
 種もらい播きしひまわり花が咲き 有澤 春江
 窓越しに背伸びして見る火花かな 川村 潔子
 猛暑日に氷が売れるたい焼き屋 細木 隆豊

◆かがみ野俳句会◆

満目の青蘆に風行き渡り 佐竹 洋子
 帰省子の高校生の声変り 佐藤 幸
 やそじめ 八十路女の二日かかりて盆支度 利根 弘子
 おもむろに葉陰の深む今朝の秋 古川 信子
 その日より亡夫の魂黒揚羽 小松 愛子
 流燈の杭に触れては傾ける 中澤 美晴
 盆燈籠廻れば遠き父の顔 山崎 鈴子
 突堤に波立ちあがる敗戦忌 吉田 芳

ラーゴ高校生 県内観光

7月22日～8月18日まで、姉妹都市アメリカ合衆国フロリダ州ラーゴ市の高校生が夏休みを利用して、香美市をはじめとする県内でホームステイをし、県内を観光しました。

訪問で訪れたのは、ローラさんとデラニーさん、2人は昨年6月に山田高校へ短期留学し、山田高校生と交流を深め、今回はプライベートで来訪しました。山田高校生とEメールでやりとりをし、ホームステイ先を決めるなど、主に生徒同士で計画を立てたとのことです。



姉妹都市交流に興味のある方は、企画課 ☎53-3114まで

吉井勇記念館だより

菊花展

10月27日(水)～11月1日(月) 終日

香美市在住の菊愛好家が丹精込めて育てた菊花を展示します。大輪菊を中心に、色鮮やかな菊花が、皆さんをお迎えします。

■喫茶コーナー
 菊花展開催中の日曜日に、地元のお茶を楽しんでいただけます。一息ついて、ゆつくりと菊花を観賞してください。

また、菊にちなんだ勇の短歌をはじめ、美しく花を咲かせるための年間作業をパネルで紹介いたします。ぜひご来館ください。

【日時】10月31日(日) 10時～16時
 【料金】お茶代200円
 【問い合わせ先】市立吉井勇記念館 ☎58・2220

吉井勇作品紹介 龍馬編 その④

美の意。桂の濱に桂浜。『京洛史蹟歌』(昭和19年2月大雅堂)

海援隊 率るて起らしそのひとの 龍馬顔

桂浜の龍馬像背面、海に臨む場所に、勇の歌碑が建てられている。

解説 龍馬の肝が太い。大胆である。度胸がある。

大土佐の 海を見むとてうつらうつら

大土佐の 龍馬思へば

桂の濱に われは来にけり

大土佐に土佐。「大」は賛

◆蕪句会◆

縁側に転びたるかに昼寝妻 一灯に生者の祈り八月来
 帰省子へ妻の笑顔の戻りけり 大根種貫ふ句会のなごやかに
 田も畑も一雨ほしき残暑かな バンガロー更けて河鹿の闇深し
 玉音の死語となりたる敗戦日 庭草の葉先にゆれる蟬の殻
 声一つ立てぬ賜めて秋暑し 上りつつ谷音近み独活の花
 一つの代と思ふ井戸あり百日紅 帰省子と白秋吟ず月の縁
 鈴虫の初音待ちつつ空白む 心中を今打明ける敗戦忌
 よき出合いあり流灯の添い合うて 氣と一字擦れに気魄白団扇

◆かほく俳句会◆

阿鼻叫喚の蠅取紙を取替へよ 送り火やひと際光る夫の星
 秋暑し菅の背蓑に守らるる 炎帝を支へて高く鬼瓦
 秋暑し納屋に忘らる田役槌 また今日も人が死ぬてふ酷暑かな
 雲の峰川上谷を覆ひけり 炎天や病弱の妻居場所無し
 一本を夫と分け合ふソーダ水 激辛のカレーを煮込む終戦日
 落し水余生と云ふはこんなもの 龍馬展土佐の大暑の中にかな
 包丁をやさしく使ふ新生姜

吉村 幹愛
 公文 春紀
 岡本かほる
 高橋 章
 明石ゆきゑ
 篠崎 亜希
 北村 幸子
 國澤 英
 西川 常夫
 甲藤 卓雄
 野崎 典子
 北村 里子
 小野川順子
 前田 芳子
 明石 英子
 竹内 草

乾 真紀子
 奥宮さとみ
 黒岩 幸友
 黒岩千英子
 小松志津男
 小松 隆之
 小松 完
 小松 昇
 杉山 春萌
 野村 里史
 前田 欣一
 前田 秀女
 間崎 和代

この習ひ仮初ならず盆提灯 刀豆や病を知らず老いけらし
 木の枝の杖二三本登山口 通勤す汗で流るる無駄化粧
 蟻生きれていつかは空を飛べるかも山中 瑞輝

◆土佐山田町俳句会◆
 新聞を隅から隅へヒロシマ忌 群青の空のいくたび終戦忌
 奥土佐の茶店びらきや野菊晴 冷房のききすぎている鬮
 ゆつくりとシャッター開ける夏休み 赤蝮化粧の匂いさせて来る
 秋口の誰言ふとなき気配かな コンバインパソルさして終戦日
 榎の実鉄砲みんな撃たれて村亡ぶ 炎天へ出るためらいのひと呼吸

今月のキラリ

新涼は秋口の新鮮な涼気のこと。赤子の声を響くと感じたのは新涼に対する作者の感性。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)
 ▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
 ▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
 ▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

投稿先 企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
 〒782-8501 (住所記載不要) FAX 53・5958

